

みんなで作る

# 森ものがたい

2020年9月6日発行 第135号

油山自然観察の森  
森を育てる会



〒811-1355  
福岡市南区大字松原855-4  
油山市民の森管理事務所内  
TEL: 092-871-6969  
FAX: 092-801-1463  
<http://www.morikai.org/>  
mail: aburayama@morikai.org



## <7/5 カブトムシの森 草刈り>

も	表紙	1
く	活動ノート(7/5,7/19,8/2,8/16)	2~4
じ	特集「昆虫調査」	5~6
	油山のお仕事日記「秋の草花」	7
	「世話役から」(備品管理)	7
	うん・えー会報告(6/28)	8
	活動予定	8

「森を育てる会」は福岡市油山自然観察の森の保全活動を通じ、広く緑地保全活動を行う市民の育成・交流を行う事を目的とする市民グループです。活動は(公財)福岡市緑のまちづくり協会の助成を受けて行っています。**会では、随時、会員を募集しています。**興味がある方はメールまたは電話でご連絡下さい。

# 活動ノート



7月5日(日)  
カブトムシの森 草刈り  
9:30~15:30



◆参加者：砂田、古寺、山川、国広、川上、鎌田、松雪、静間、黒岩(体験) 計9名

◆内容：4月5日のアカマツ林作業を最後に、コロナ禍の影響で活動出来ない状態が続いていましたが、必要な対策を講じることで本日から活動を再開することになりました。参加希望の事前申請、最初と最後のミーティングは玄関前で実施、作業中以外はマスク着用、道具の貸し借りの原則禁止、昼食時を含め2mのソーシャルディスタンスの確保などなど。慣れないことが多くセンター出発まで少しバタバタしましたが、出発するとだんだんいつものペースを取り戻して行きました。天気が心配でしたが、終日曇りで湿度は高かったものの、気温は25度程度でますますの活動日和でした。今日は先般購入した刈払機が初登場、修理から戻ってきたチェーンソーの



試し切りもあったので、チェーンソーを使えるベテラン会員に機材担当をお願いして、使い方の指導に当たって頂きました。カブ森到着後、A地区の自然観察をしながら、作業時の留意事項など確認した上で、作業開始となりました。刈払機は草深く特に保護植物もない南側、西側を中心に刈って、それ以外の慎重な作業が求められる場所を、カマ、刈込バサミで刈りました。刈払機の効果は絶大で、作業が大いにはかどり、その後湿地部分も刈りました。遊歩道も歩きやすくなり、通ってみようと思わせる程度になり、夏休みを控えて子供達を迎える準備が出来ました。作業開始時にはオオスズメバチが飛んでいましたが、その後は危険昆虫やヘビなどと遭遇することもなく、熱中症、ケガもなく終えることが出来ました。今日手がつかなかったB,C地区は19日に作業しますので、刈払機体験に是非お越しください。今日体験参加された農学部学生さんが入会されました。今後のご活躍が楽しみです。

## 【ふりかえりより】

・はじめて刈払機を使い、機械のパワーを実感しましたが、草を間近に見ながらの手刈りの良さもあり、これからは両用で作業出来るようになり良かったと思います。(国広)

・初めて活動に参加させていただきました。下刈り作業は大変でしたが、たくさんの草木と触れ合うことが出来て楽しかったです。(黒岩)

・A地区だけでしたがスッキリきれいになり、夏休みに向けて準備できました。カブ森は萌芽更新の進捗に伴う環境変化で、これまで見られなかった植物に出会え、今後が楽しみです。(静間)

7月19日(日)  
カブトムシの森 昆虫調査と草刈り  
9:30~15:30



◆参加者：鎌田、吉田、古寺、平野家(5名)、松尾家(3名)、黒岩、新牛込家(4名)、中島(晃)(体験)、山川、国広、川上、林、松雪、静間 計23名

◆内容：今日の昆虫調査は、6月の新型コロナ影響による活動中止のリベンジでした。曇天のもと、これまでと違って屋外で打ち合わせと新型コロナ対策注意事項の確認をして、カブ森へ向かいました。途中のルート観察では、いつも通り子供たちが活躍して17種の昆虫を同定しました。休憩小屋でお昼ご飯を食べた後はトラップの回収を行いました。トラップ設置後の天気良すぎてホイホイトラップのパナナが乾燥





気味で昆虫は少な目でした。また、ピットフォールトラップはここ数年同様に2本が抜かれていました。小雨で雨宿りを少しした後センターに戻りました。同定作業は3密を防ぐため、屋外で行いました。トラップは11種とこれまでに少なく、カブトムシがセンター近くで見つかったこと、この調査とは別に前日夜間に行われていたライトトラップで見つかったクワガタ3種も合計すると32種の成果となりました。ここ2年、大雨、コロナとあって、活動がなかなか思い通りにできませんが、参加者、特に子供たちが多いことはうれしい限りです。来年こそは予定通り開催できれば、...

一方、草刈り作業は、午前中はA地区の前回残った西側部分の草刈りと、伐倒したままのクヌギの玉切りをしました。刈り払い機を誰でも使えるようにとの方針に従って、今日は前回習熟した仲間を先生に新たに3名が体験しました。機械の指導に手こずって機材担当から微妙な操作を教える一幕もありましたが、その後は支障なく使えました。次回もう一度確認して、矢張り問題があるようなら修理に出すということ



になりました。伐倒木の処理は前回担当した者が引き続き行い、残った人がカマでC、A地区の草刈りをしました。午後はB、C地区での作業。刈り払い機の威力は絶大で、扱いやすいこともあって皆さん、のめり込んでいました。おかげでC地区は8割方処理できました。B地区遊歩道沿いは地形的に刈り払い機での作業に馴染まないで、従来通りカマでの草刈りとなりました。B地区斜面は今回手が付けられなかったもので、秋以降に作業出来ればと思います。時折り風があったものの、湿度が高かったので思ったより疲れしました。

#### 【ふりかえりより】

- トラップに入った昆虫は少なかったが、道中、カワトンボ等いろいろな虫を見つられてよかった（新牛込清成）
- 初めて聞く名前の虫や植物を色々観察できておもしろかったです。色々と興味をもって調べてみたいです。（中島（晃））
- 午後から不安定な天気になりましたが、雨が降り少し涼しくなり作業もし易かったです。（山川）
- 久しぶりの活動で、気持ちよい汗をかくことが出来ました。初めて刈り払い機を使い草を刈りました。（林）

8月2日（日）

#### 削り馬体験

9：30～15：00

◆参加者：鎌田、林、中島、古寺、松尾家（3）、新牛込家（2）計9名

◆内容：今回の削り馬体験会は、9時半にミーティングを始め、終了後にセンター前で体操、倉庫から道具を出し、センター前に削り馬を並べ、入門編の「小枝の色えんぴつ」作りを10時過ぎから始めました。削り馬・ドローナイフを触るのが初めての会員もいて、グリーン



ウッドワークの説明や道具の説明をしました。その後、一人1本ずつ色鉛筆を作り11時半に完成。その後は削り屑の壁掛けに挑戦。昨年挑戦した難しいスプーンづくりなどを止め、枝を四角い棒に削り、木枠を作りその中に渦巻状のナイフの削り屑を張付けるもの。枝を削り始めて昼食となりました。削り馬を椅子やテーブル代わりにお弁当を食べました。午後ごはんを食べ終わるとどこからともなく作業が始まり、四角い棒作りに夢中で取り組みました。遅れて昼から参加した会員は色鉛筆づくりから始めました。1時半ごろには四角い棒ができ、4分割してフレームを組立てました。木枠に入れる渦巻状の削り屑は生木の屑を使う予定でしたがきれいな渦巻きになっておらず、倉庫にあった乾燥したエゴノキの棒を削り、渦巻状の削り屑をつくりました。削り屑の品定めやそれを使っての木枠内のレイアウト、接着がなかなか難しかったようです。出来上がった作品を並べて可愛い色鉛筆、おしゃれな削り屑の壁掛けができました。また、はじめて使うドローナイフ、削





## 「昆虫調査」 活動報告

### ■新型コロナの影響で中止や予定変更となる

今年予定していた初の6月の昆虫調査は、新型コロナの影響で中止、7月も例年であればバーベQと泊まり込みでのライトトラップのところを1日だけのスケジュールへ変更となりました。

### ■7月調査はコロナ対策でスタート

朝集合の後はいつもと違ってコロナ対策のための注意事項の確認からスタートしました。

今回は大学生の体験参加1名を加えて17名となかなかの大所帯で、小学生以下の子供たちが6人ということもあり、ゆっくりとセンターからカブ森へ向かいながら昆虫採集を行いました。



### ■バッタやカマキリを複数発見

子どもたちは捕獲がなかなか上手になっていて、次から次へと昆虫を捕まえては名前を聞きにきていました。

バッタの間ではツマグロバッタ、クルマバッタ、ツコムシなどを発見しました。

今回はカマキリの捕獲も多く、コカマキリとチョウセンカマキリが見られました。

また、カワトンボも飛んでいる姿が目撃されましたが、捕獲には至らず、種名までははっきりしませんでした。おそらくアサヒナカワトンボまたはヤマトカワトンボだったようです。

カブ森到着後はすぐに、年を越していると思われるややツヤのないヒラタクワガタのメスを発見。

その後、小川のせせらぎの中、小休止をして水分補給しました。

例年であればもっと多くの昆虫が見られるところなのですが、今年は長雨が続いたことと気温が低かったことが影響したのか、カブ森内は少な目の成果となりました。



### ■休憩小屋でランチの後トラップ回収と同定

ランチ後は木曜日に仕掛けていたホイホイ&ピットフォールトラップを回収しながらセンターへ戻りました。

今回は大学生2人に回収をお願いしましたが、すぐに慣れてもらえたようでした。

残念ながらピットフォールトラップは2本が抜かれていました。

ホイホイトラップは大丈夫でしたが、設置後の天気良かったせいかバナナの腐食が進まず、カブトムシやクワガタムシだけでなく、全般的に昆虫があまり入っていませんでした。

コロナ対策で同定作業を外で行ったのですが、回収昆虫が少なかったこともあり、短時間で終了、めばしい昆虫も少なく、採集分も含めても全部で32種とかなり少ない成果となりました。

とはいえ、怪我無く、楽しく活動できたのでその点は良かったと思います。

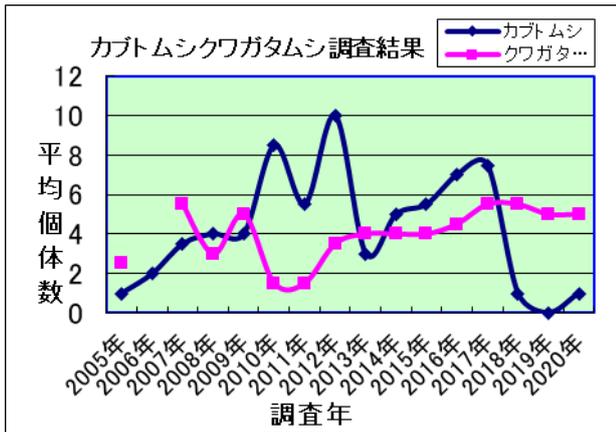


# 「昆虫調査」 経年分析

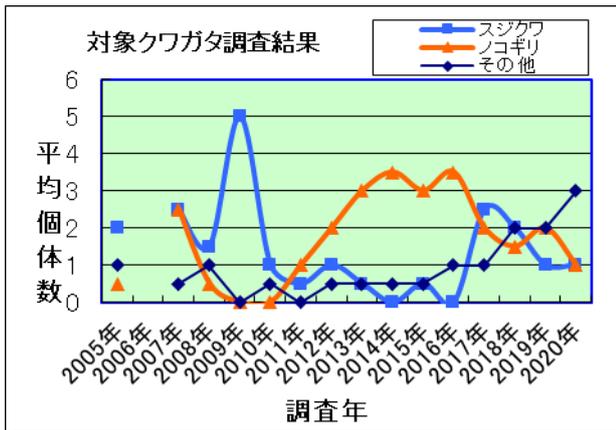
## ■カブトムシとクワガタムシの1回平均採集数

カブトムシは比較的安定して採集されていましたが、昨年度は7月調査が中止となり、8月も連日の猛暑が影響したようでカブトムシの回収はありませんでした。今年も気候の影響があったのか、カブトムシはセンター近くで見つけた1頭のみと少なく、クワガタムシが多くなりました。

なお、2013年からはトラップの数を12個⇒6個へ減らしていますし2013～2014年はトラップ荒らしがあったため、参考値となっています。



増えてきたクワガタムシの種類別採集数は以下のようになっています。



その他に含まれるのはコクワガタ、ヒラタクワガタ、ネブトクワガタ、ミヤマクワガタとなります。

主なクワガタムシはノコギリクワガタとスジクワガタとなっていて、ここ数年は間伐した材木をカブトムシの森にある程度残してきたことも寄与してか、クワガタが増えつつあるようです。

また、今回はヒラタクワガタとミヤマクワガタが見つかりました。

引き続きクワガタが多かったことから、産卵場所の確保が好影響を与えているようです。

## ■その他の昆虫について

今年度新たにカブトムシの森の昆虫リストに加わった昆虫は残念ながらありませんでした。

昆虫調査で同定された昆虫は合計で225種のみとなりました。

## ■ちょっとした違いで似た昆虫を見分ける

今回はノコギリカミキリとニセノコギリカミキリの微妙な違いについて、前回のカナブンに続いてその見分け方を紹介します。

そもそもノコギリカミキリは知っているもニセノコギリカミキリがいることは知らない方も多いと思いますので、その紹介も兼ねています。

メスでは触覚の節の数で12節(ノコギリ)と11節(ニセ)の違いがありますが、それだと見分けにくいですし、数を数えるのも大変です。

そこで、後ろ足のふともも部分の次の節(けい節)をよく見てみましょう。



写真の丸で囲まれた部分で、ここに縦方向に1本溝が入っているものがノコギリカミキリになります。

ニセノコギリカミキリだとこの部分に溝がありませんので、細かいかもしれませんが捕まえてしまえば見分けることは可能になります。

## ■最後に

引き続きカブトムシの森の昆虫リストを増やしていきたいと思っておりますので、ご興味のある方がいらっしゃいましたらまずは気軽に体験参加でも結構ですので一緒に昆虫を探してみませんか。

昆虫調査班はいつでもお待ちしております！

昆虫調査世話役

新牛込

## 油山のお仕事日記

### 「秋の草花」

油山市民の森・自然観察指導員 小川真樹

油山はふもとの町よりちょこっと秋が早くやってきます。8月の下旬頃から、出退勤時刻には涼しい風が吹いていいかんじです。

秋は春と同様に野草の花がたくさん咲きます。花の役割は、異なる個体同士で花粉を交流させ、遺伝的に多様性のある種をつくることです。春や秋に花が多いのは、単純に植物体に負担の少ない気候条件であることもありますが、花粉を運ぶ虫たちの活動も活発であるためと考えられます。

秋の油山の草花で（人間に）人気があるのは、アケボノソウやセンブリです。シュッとしてスタイルも良く、派手すぎない花を咲かせるので、私は好きです。



アケボノソウ



センブリ

秋の油山で虫に人気がある（ように見える）のは、キツネノマゴです。紫のかわいい花にいろんなハチがぶんぶん寄ってきます。平日の静かな園内で耳をすませば、足元から羽音が聞こえてきて嬉しくなります。

そのキツネノマゴに9月頃よくやってくるのが青いハチ、ナミルリモンハナバチです。幸せのブルービーとして、知ってる人は知っている（人間に）人気者です。キツネノマゴは小さくて目立たない花ですが、ブルービーの季節は、幸せになりたくてキツネノマゴを探します。



キツネノマゴ



ナミルリモンハナバチ

ここまで書いて、ふと気づいたのですが、本誌を白黒印刷で閲覧する方には、幸せが伝わらないですねー。

## 「世話役から」

備品管理世話役 国広信幸

森会に入って最初の活動日、油山の自然のなかで心地良い汗を流した後、全員での道具整備がありました。道具を大切にする会の活動に“イイな！”と共感しました。ただその時は自分が備品担当をするとは思っていません。2年後、前任者からの指名により戸惑いながらも引き継ぐ事になりました。

まず倉庫内の備品を確認しました。この時に今は退会された先輩が同行、助言して下さったことが嬉しい思い出となっています。倉庫にはノコヤカマ等馴染みのある道具の他様々な備品があり、その多さにあらためて驚きました。草刈り、伐倒とその材処理、作業道作りのための道具、植生調査や木工教室で使う用具、また道具整備のための消耗品、更に活動記録用のカメラ、納会に使う鉄板・金網まであります。

現物確認後、新しいフォーマットで『備品管理台帳』を作成。台帳は種類・用途で分けけて品名・数量を書き入れ、新規購入の日付・金額、廃棄の日付、不具合が生じた備品の修理履歴等も記入するようにしました。現在、備品の種類は約100。この数の多さは森会活動の幅広さの表われでもあります。

さて備品管理の仕事は次のようなものです。新規購入、廃棄、消耗品の補充、修理手配、管理台帳の更新、整備活動（今年度より6月、9月に予定）の準備・実施等です。新規購入については、初めて導入するものや高価なものうん・えー会の決定に基づき、個別に提案を受けたものは必要に応じて役員全員に意見照会することになっています。商品はホームセンター、ネット通販や専門の取扱会社で探し、性能・品質・安全性を第一に、価格も考えて選んでいます。最近では参加人数が少ないこともあり、直近で刈払機を導入しました。森に響くエンジン音はまだ耳慣れませんが、手作業に加え機械力をうまく活用することでカブトムシの森やアカマツ林の整備が更に進むと思います。

備品は活動の大事なパートナー。その管理は「こういうのがあったらいいね、これは切れが悪くなっているよ、ハサミ類のカバーを作ったよ」等々の会員みんなのアイデアや協力を得ながら行っています。

道具の整理整頓や手入れは作業の安全にもつながります。これからもより安全に楽しい活動ができるよう工夫・改善していきたいと気持ちを新たにしています。



# うん・え一会報告

2020年6月28日(日) 9:30~12:00

出席者：林、鎌田、松雪、川上、国広、柴戸、山川、新地、古寺、小川(計10名)

## 1. 4月~6月活動報告

4/5(日)アカマツ林作業(松雪)→詳細は会報134号参照

※以下の活動は、新型コロナ対策の為すべて中止とした。

- ×4/18(土)カブ森作業(静岡)、植生調査(鎌田)
- ×5/17(日)油山自然観察(柴戸)、安全講習会(中嶋)
- ×5/31(日)カブ森作業(静岡)
- ×6/14(日)カブ森昆虫調査(新牛込)
- ×6/28(日)備品管理(国広)

## 2. 7~9月活動予定&予定変更

新型コロナ対策の為、  
予定変更の可能性あり

・7/5(日)カブ森作業(静岡)

※7/18~7/19の活動はそれぞれ予定を変更

[当初の予定 カブ森昆虫調査(新牛込)、せせらぎ整備(鎌田)]

- ・7/18(土)昆虫調査(新牛込) 7/19(日)カブ森草刈(静岡)
- ・8/2(日)削り馬体験会(鎌田)
- ・8/16(日)木工教室(鎌田)
- ・9/6(日)うん・え一会(林)、備品管理(国広)
- ・9/27(日)草木染め(平野)→安全講習会(中嶋)に変更予定

## 3. その他

3-1. 2019年度(令和元年度)決算報告

(取りまとめ：早川・小川、報告：小川)

→報告内容を、出席者全員が拍手で承認

3-2. 2020年度(令和2年度)予算案(鎌田)

→当日発表の予算案を承認

3-3. 新型コロナウイルス対策について

センター発「ボランティア活動ガイドライン」を受けて検討した結果、今後の活動全般について下記項目を厳守の上、実施することで決定。(※ガイドラインは、6/9付メールリングリスト「森会の活動についてのお知らせ」参照)→世話役は実施計画書に付記する案を作成する。

- ①発熱等兆候が見られる会員は参加を認めない。
- ②参加者は事前に世話役宛に連絡をすること。
- ③活動前後は積極的に手洗い・消毒を行うこと。
- ④集合場所、オリエンテーション、昼食等は屋外にて実施し、各自2m以上の距離を確保すること。
- ⑤マスク着用を原則とする。ただし、屋外作業中に熱中症などの危険性がある場合は、マスクを外し2m以上の距離を確保すること。
- ⑥道具・文具類は、作業開始から終了まで同じ人が同じ物を使用。途中で交換する場合や作業終了時は消毒。
- ⑦屋外作業は、雨天時中止とする。
- ⑧感染者が発生した場合、関係機関への個人情報の提出に協力することを承知していること。

3-4. 刈払機(草刈機)の導入について

・機材の選定及び安全対策を考える →国広、松雪

## 4. 発送作業 →①会報第134号

# 活動予定(2020年9月~)

★〈作業〉〈調査〉〈観察〉は小雨決行

〈うん・え一会〉〈勉強会〉は雨天決行

活動時間：9:30集合 ~ 15:30解散

★荒天の場合はセンターまでお問い合わせください。

★活動内容は、当日の参加人数、天候等によって変更になる場合があります。

★〈作業〉の標記のある日の服装は「森スタイル」(長袖、長ズボンで安全に作業ができる動きやすい服装)でご参加ください。必要な持ち物は、いぼ付軍手・帽子・タオル・弁当・飲物・おやつ・筆記用具の他、必要に応じて着替え・雨具をご持参ください。



## 9月27日(日)安全講習会(座学と実地練習)

伐採の基礎知識、作業の手順を学んだ後、実際に樹木を伐採しながら、安全に作業する手順や方法を確認します。

## 10月4日(日)アカマツ林作業

アカマツ林全域での萌芽枝や粗刈り、草刈り、広葉樹の除間伐を行います。

## 10月17日(土)カブトムシの森作業と植生調査

- ・カブトムシの森作業 草刈りと除伐を行います。
- ・植生調査 カブトムシの森A地区のコドラート内の林床植生調査を行います。

## 11月7日(土)カブトムシの森作業

クヌギの伐採を行います。

## 11月21日(土)アカマツ林作業

広葉樹の除間伐を行います。

## 12月5日(土)うん・え一会とシイタケ駒打ち

- ・うん・え一会 7月~9月活動報告、9月~12月活動予定、その他(予算状況報告、世話役活動振り返り提出依頼)
- ・シイタケ駒打ち 伐採したクヌギを使いシイタケの駒打ちをします。

## 12月13日(日)納会・アカマツ林作業

- ・納会 焚火を囲みながら一年の活動を振り返ります。
- ・アカマツ林作業 外部の活動受入準備をします。



\*\*\*\*\*

油山自然観察の森 森を育てる会

会報『森ものがたり』季刊発行

編集担当：川上寛、西岡恵子、鎌田隆、静岡純、

松雪清人 印刷担当：小川真樹

\*\*\*\*\*